

令和3年4月実施Nーバス路線再編に伴うメリット・デメリットについて

令和元年度に実施したNーバス利用実態調査結果や意見交換会での意見を踏まえて、再編後方針案を策定した。市民の皆さんが日常的に利用する主要な買い物、通院施設を經由するルートとする。また、利用者の約6割を占める高齢者の利便性を向上させるため、乗り継ぎなく目的地を經由するルートとする。

メリット

1. アクセスの向上

(1) 乗り継ぎ

市民の目的地として多い「福祉の家」へ全路線が乗り継ぎなく行くことができる。

〈再編前〉4ルート → 〈再編後〉8ルート

(2) 買い物

長久手古戦場駅（イオンモール長久手店）、戸田谷（アピタ長久手店・アオキスーパー長久手店）を經由する路線が増加する。

〈再編前〉4ルート → 〈再編後〉6ルート

(3) 病院

愛知医大を經由する路線が増加する。

〈再編前〉5ルート → 〈再編後〉7ルート

(4) 公共施設

文化の家を經由する路線が増加する。

〈再編前〉2ルート → 〈再編後〉5ルート

2. 運行サービスの平準化

市西部の路線である新中央線・新西部線の所要時間をほぼ同じにすることで、同便数を確保する。

3. バス停の新設

新藤が丘線のルートを延長し、「作田一丁目」バス停を新設する。

4. 収支率の改善

利用者の約6割を占める運賃が無料の65歳以上の高齢者に受益者負担を求めていくことで、収支率の改善が見込まれる。

〈再編前〉4.6% → 〈再編後〉17.3%

デメリット

1. 運行本数の減少

ワンボックス車の運行廃止に伴い、車両台数が減少し、小型バス5台での運行となる。また、全路線が福祉の家を経由するため、所要時間が延長となる。

2. バス停廃止（北浦北のみ）

ワンボックス車の運行廃止に伴い、ワンボックス車のみ経由できる北浦北のバス停が廃止となる。

3. 料金の改定

運賃無料の対象であった市が発行した赤色の「あったかあど」携帯者は、1乗車100円となる。